

観光地域づくりに関する意見交換会 意見要旨

1. 日 時 : 平成29年11月27日(月) 16:00~18:00

2. 場 所 : 安保ホール6階 601号室

3. 議 事 :

- ・ 中部ブロックの観光の現状
- ・ 中部地方整備局の観光振興の取り組み
- ・ 観光振興に資する社会資本整備に関する意見(アンケート調査結果の報告)
- ・ 意見交換(※主な意見は以下のとおり)

○学識経験者

- ・ 観光をまちづくりや景観という視点で見ると、当たり前のように見えている風景が、外国人にわかりやすいか、また異文化背景を持っている人たちの中でどのように見えているかという新鮮な切り口が浮かび上がってきた。日本の街並みに関しては、あまり美しくない部分がまだまだたくさんあり、観光まちづくりの取り組みが美しい景観というもののステップになればよい。
- ・ まちづくりや景観で推進すべき取り組みとして、看板やネオン等の街の中での光(光害)と街の中にあふれているスピーカーの音について対応を考えてほしい。
- ・ 多言語化は非常に大事だと強調されているが、何をどのように多言語で表記するのかを具体的に明示して頂きたい。又、ピクトグラムも統一化をして頂きたい。
- ・ 外国人観光客が、セントレアに着いた瞬間からクレジットカードが使えない。名古屋の地下鉄も現金をもっていないと使えないことが不評である。
- ・ 各県には国際交流協会があり、そこでは地域の外国人向けの観光情報を作って出している。その地域に住んでいる人ならではのおもしろい視点もある。また、ボランティアの観光ガイドを行っており、ガイドをしながらボランティア団体や民間にヒアリングをしたりしているので、そういうものを集めるとおもしろい話が聞けると思う。
- ・ 各国いろんな都市へ行くと、主要な観光地には乗り降り自由のポップ・オン・ポップ・オフというバスがある。バスに乗るとイヤホンをくれて、何十言語と観光案内が出る。そういう多言語案内の仕方もある。
- ・ 災害等の緊急時に、外国人観光客の安全確保をどうするか、非常に喫緊の課題である。
- ・ 観光は、いろんな立場、いろんなタイミング、いろんな組み合わせで、いろんな観光客になるため、そういう視点を加味しながらの調査は、非常にユニークな取り組みである。
- ・ 観光事業者の方からの回答で、行政の施策についての理解が低い状況であり、おそらく市民に至ってはどれくらい周知されているのか非常に悲観的に感じた。
- ・ インバウンドの団体旅行を中心にマーケティングをしてきたが、今年度の団体旅行が減少になっているのは、海外旅行者がエキスパートになっていけば個人旅行に分散している傾向からであり、増加させるためには、今後、昇龍道をもう一度選んでもらう仕掛けをこれからもして行くことが重要である。
- ・ 災害に対して、外国から観光客を呼ぶからには責任を持たないといけない。外国人の観光客をどのように守って行くのかということが、次の復興に非常に役に立つと思う。災害時の外国人観光客への対応を想定し、国から地方行政に働きかけをお願いしたい。

○観光事業団体

- ・アンケート調査において、案内、サインはこれまでずいぶん取り組んでいると思うが、それでもまだわかりづらいご意見が多い。表示の仕方、設置場所を工夫する必要があり、例えば、標識に観光地名を入れる工夫もこれからどんどん行っていただきたい。
- ・アンケート調査で「取組について知っていたもの」「これから推進すべき取組」の内容について、知らないものがあった。こういった整備を行っているや今後重点的に何を取り組むのかを積極的にPRしていただくことが大事である。私どもはプロモーションの方をやってるので、今後重点的に取り組むものに乗せていくことが必要だと思っている。
- ・インバウンド対応で、外国人の動きに合わせて重点的にやっていくことも必要である。
- ・外国人観光客が団体型だったものが、FIT（個人旅行）化をする中で、日本人が行かないところでもどんどん行きだしている。中部管内は非常に自然が多い地域であり、多言語表記がなされていない観光地も未だある。観光施設のみならず、自然の箇所に関する表記や説明が今後必要になってくると思う。
- ・ラグビーのワールドカップが2019年にあることでアンケートを行った中で、日本に滞在するのが2週間程度と出ている。そういったことから、外国人のレンタカーを利用する需要も非常に多くなると言われている。そういった中で、交通表記とか標識の問題は非常に重要な課題である。「徐行」という表記がよく分からないという話もあり、外国人にとってまだまだ国際標準化という形になっていないと認識している。
- ・今後、ナビやスマホと連動したような情報検索機能の質の向上が問われてくる。
- ・レンタカーの利用率向上では、乗り捨ての問題を解決していかないといけない。仕組みができてくると中部管内を周遊するようなFITに対応したルーティングも可能になってくると思う。

○経済団体

- ・外国人観光客が高速道路の路肩に停車しているのを結構な頻度で見かける。案内、サインの問題だけでなく他の理由があるかもしれないので、何か分かるようであれば調査すると一つの解決のきっかけになる。
- ・観光のお客様を受け入れるボリュームが大きくなればなるほど、受け入れ体制として、道路やパーキングなどの整備を強化する必要がある。
- ・災害時も意識した案内誘導、サインの多言語化なども検討が必要である。
- ・情報発信やガイドの育成が課題である。

以上